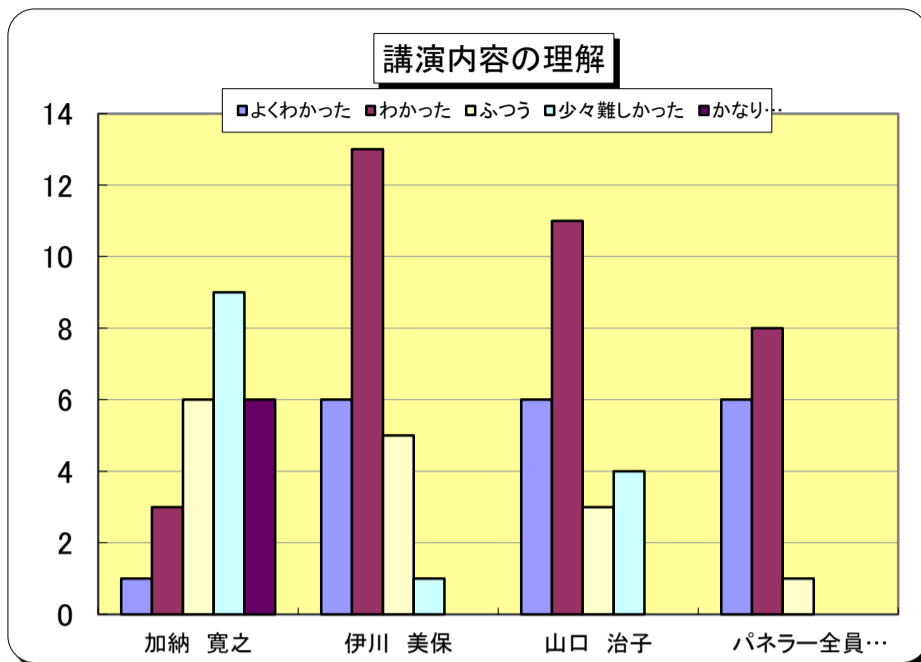
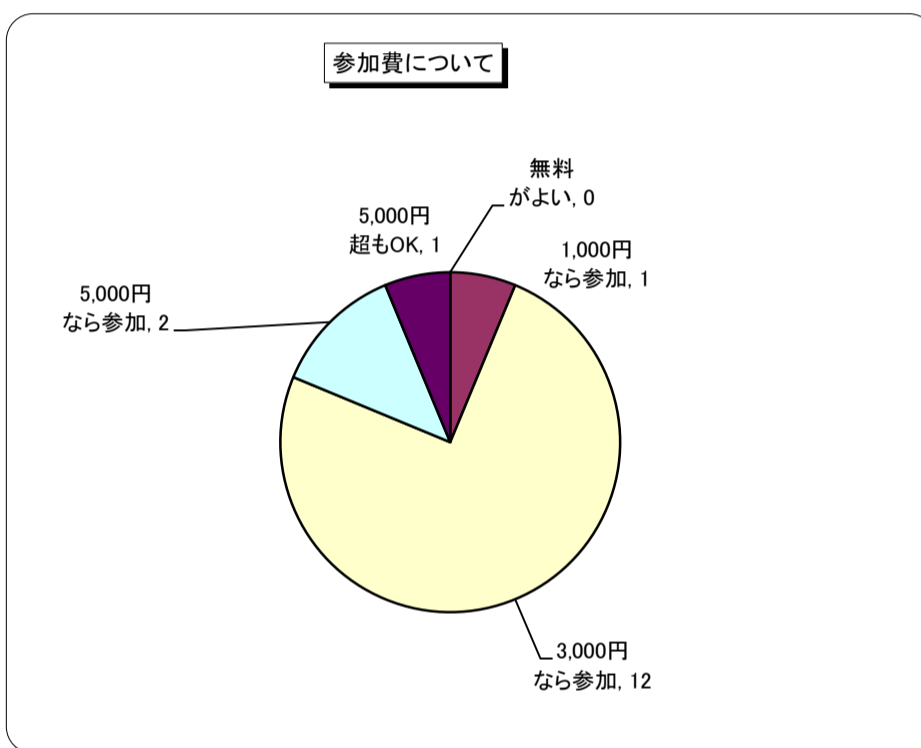


アンケート回収数25枚(参加者:45名、演者4名を除いた回収率:61%)

No.	テーマ	講師	よくわかった	わかった	ふつう	少々難しかった	かなり難解
1	専門家と一般市民をつなぐリスクコミュニケーションの手法	加納 寛之	1	3	6	9	6
2	リスクの合理的判断に関わる個人要因:リスククリテラシー、ニューメラシー、批判的思考	伊川 美保	6	13	5	1	0
3	食品安全のリスクアナリシスにおけるリスクコミュニケーションの過程	山口 治子	6	11	3	4	0
4	パネル・ディスカッション:『市民の食の安全・安心につながるリスクミとは』	パネラー全員 進行:山崎	6	8	1	0	0

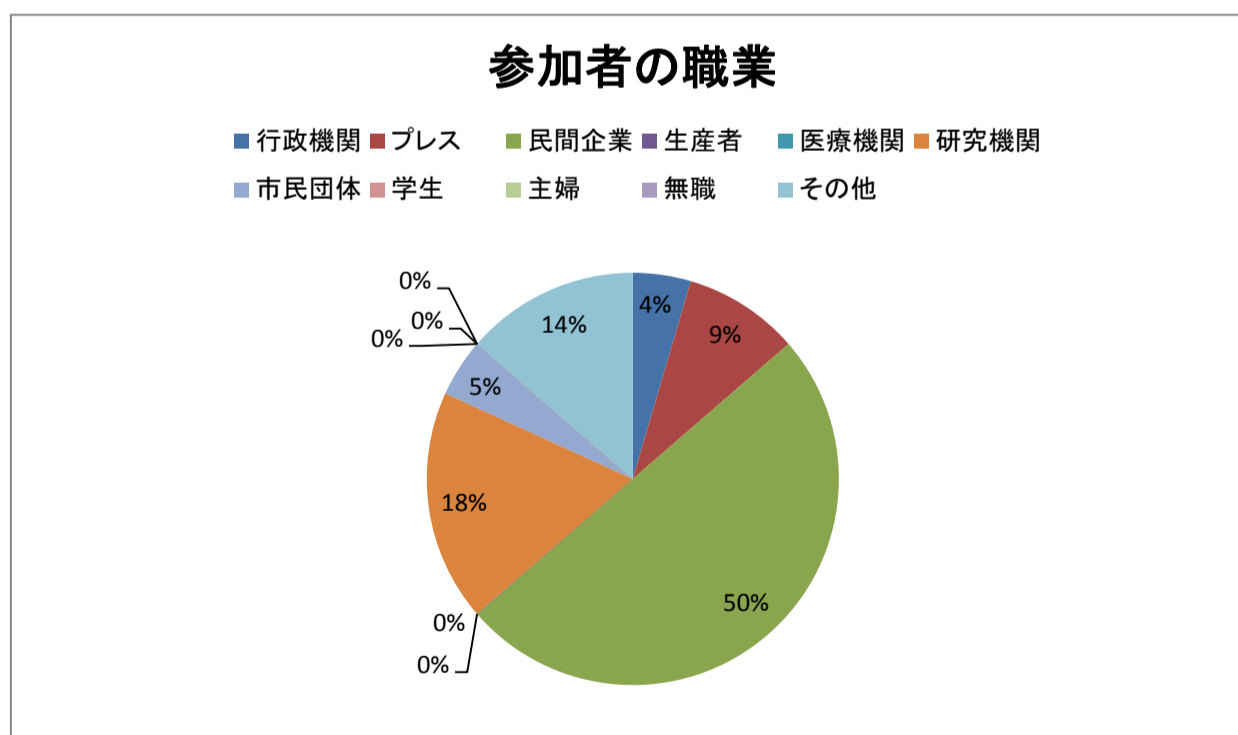


	無料がよい	1,000円 なら参加	3,000円 なら参加	5,000円 なら参加	5,000円 超もOK
今回のフォーラムの参加費(NPOへの賛助)についてどう思われますか?	0	1	12	2	1
今回のフォーラムについて、率直に思われたことを何でもお教えてください。	(別紙)				
今後、食の安全と安心の分野で、どのようなテーマのシンポジウムを希望されますか?	(別紙)				
市民の食の安全・安心につながるリスクミのために、いま何が必要でしょうか?	(別紙)				
当NPOから季刊誌を発行しておりますが、無料購読を希望される方はあて先(郵便番号・住所・氏名・所属機関等)をご記入ください。	(別紙)				
当NPOからメルマガ(ご案内メール)を不定期に発行しております。無料購読を希望の方はメールアドレスをご記入ください。	(別紙)				



職業

行政機関	1
プレス	2
民間企業	11
生産者	0
医療機関	0
研究機関	4
市民団体	1
学生	0
主婦	0
無職	0
その他	3



1	専門家と一般市民をつなぐリスクコミュニケーションの手法	加納 寛之
2	具体的な事をあげて、説明してほしい。テキストの文面を読み上げるだけのプレゼンは最悪だと思う。同じ時間の中で、どのようにしたら伝わるのかを考えないと、学者の学者のための聴衆を無視したプレゼンをして、リスコミした気持ちになっている学者が増えて困る。	
4	予防原則についての議論が良かった。	
6	個人の主張を明確にして分析することは、とても大切と思った。	
8	リスクコミュニケーションを行う上での前提条件がわかりやすく整理されていたと思いました。	
13	基本的な知識がないので、具体的イメージがわからない。議論の正確な解析・分析の必要性。	
14	内容が難しかったが、小括があったので少し助かりました。帰ってから復習しようと思います。	
15	教科書を整理しただけのような抽象的な講演、何を伝えたいのかさっぱりわからなかった。コミュニケーションを論じる研究者としていかがなものか。	
16	普段とは違う視点からの内容でしたので、たいへん勉強となりました。	
22	英国でのご活躍を祈念します。	
25	ニュースでみる議論は平行線が多い。メディアは議論の見取図を作れるようになれば良いと思いました。 言葉の空中戦→可視化	

2	リスクの合理的判断に関わる個人要因: リスクリテラシー、ニューメラシー、批判的思考	伊川 美保
1	小学生ぐらいの小さい時からリスクを合理的に考える習慣をつける教育が行われることで、正しくリスク判断できる市民が増えることを期待します。	
2	面白い話でした。質問者からの質問がズバリ的を得ていて、もう少し研究を深める必要があると思いました。	
4	非常に明確な説明であった。	
6	クイズの有効性がよくわかった。	
7	とても面白い内容でした。	
9	事例を使ってわかり易かったです。	
11	バナナのカリウム含量にひっかかってしまいました。	
13	ニューメラシー(web調査も内容等)の実際をもう少し詳しく説明してもらいたかった。	
14	とても分かりやすい説明で、興味深く聞くことができました。	
15	例が多くわかりやすかった。研究1・2の説明が長かったので、もう少し考察について聞きたかった。	
16	ニューメラシーの違いによって理解度等に大きな違いがあることに気付きました。企業として、どちらに焦点を当てるのか?は大変難しいですが参考としたいと思います。	
21	具体例も面白く良くわかった。	
22	欠如モデルではなく、心理学的なアプローチも必要かと思います。	
25	確率をどう理解するかについて、今後の研究に期待します。 ex.宝くじ→買わないと当たらない理論→リスク(ベネフィット)≠影響度(確率度外視)に引っ張られる心理	

3	食品安全のリスクアナリシスにおけるリスクコミュニケーションの過程	山口 治子
2	難しいことを難しいまま語るのではなく、わかりやすくしてほしい。ようはテキストをそのまま読み上げた感じですが。国の役人がこれだと国民に伝わらない。	
4	社会的論争の領域のリスクコミュニケーションに内容をしぼった方が良かった。豊洲の情報は有用である。深い内容の説明であった。	
6	体系が理解できた。危険の認知、受容の度合いをほりさげて理解し、必要な情報を提供すること!	
12	リスクアナリシスとコミュニケーションについて大変整理されており、すべてのステークホルダーが共通で持つべき共通通知だと思います。是非衛研からわかりやすき積極的に発信していただけたらと思います。	
13	リスクアナリシスの包括的内容でした。「個人的選択」のところをもう少しお聞きしたかった。	
14	専門用語が多く少し難解かとも思いましたが、要点を話の内容で強調してくれたので、理解できた気がします。	
15	同意できないが、考え方がよくわかり、おもしろかった。降水確率は毎日検証できるので別格では?	
16	最先端の場所にて研究されており、その結果をいかに消費者へ伝えるかが、企業の責任だと考えています。	
21	もう少し詳しく聞きたかった。	
25	「正しい情報を伝える」この第一歩が大切だと理解しましたが、一方でその後のステップの長さに気が遠くなりそうでした。(ex.築地の移転)	

4	パネル・ディスカッション: 『市民の食の安全・安心につながるリスコミとは』	パネラー全員 進行: 山崎
3	ペーパーによる一問一答だけでなく、パネリストからのフォローもあってよいのではないかな?	
4	良く理解できた。	
8	豊洲問題で違和感を覚えるのは、ベンゼンの測定方法が9回目以降から変更されたことです。これについて説明がないことについて、他のデータについても信頼性をもてなくなっています。安全性というより進め方の問題になります。	
12	組換え表示についても議論でふれていただき、ありがとうございました。	
15	進行がスムーズでよかった。	
21	良くまとめられていて良かった。	
24	進行、意見の集め方が良く参考になった。 →先に下の質問に対して記載しましたが、ディスカッションをすることで山崎様のフォーラムを設けた意図が少しわかってきた。	
25	それぞれの先生方が、とても深く知識をもっておられることに感銘いたしました。非常におもしろかったです。ありがとうございました。	

5	今回のフォーラムについて、率直に思われたことを何でもお教えてください。
2	非常に難しい話になってきている。学者より企業などの現場で活躍している事実の話が聞きたい。
3	若い研究者による比較的最近の知見の紹介が興味深かった。
4	専門用語が多かった。理論分析についてシンポジウムがさらに必要かもしれない。
6	大学院生の発表もとてもよかったが、一般社会とのつながりの中で体系を理解するには、専門家が話して下さるのがよいと思いました。講義の順番は3→2→1がよかったように思います。
7	リスク、ベネフィットについて伝えることは、非常に難しいということを改めて感じました。
9	理論的、科学的な情報を整理された講演だったと思います。食に限定せず、幅広い対象とされたのかと思いました。
11	2回以降も期待しています。ありがとうございました。
12	今回のフォーラムはいつもにも増して、コミュニケーション意識の根底について深ぼりし、大変参考になりました。
13	今回も多方面からの講演で(理解度は?としても)参考になります。
15	パネリストが全員同じ方向からの目線なので、逆の人もいたらどうでしょう。
19	だんだん専門家同士の学術的な議論になっている気がします。企業の人とか、実際の現場の人の話を聞いてみたいです。
22	企業の方から同じ内容で発表があれば、尚よかったかと。
23	メディアの問題もあらためて認識しました。各論をもって話し合っただけだと、ありがたいです。
24	お話内容がムズカシかった。自分が普通の市民として受けると、何をおさえて、どう行動すれば良いかの方向性をつかみとれなかった。
25	豊洲の問題について「安全」に対し「安心」がブレーキをかけている構図が見てとれます。食の「安心」とは何?というテーマもどうでしょう。

6	今後、食の安全と安心の分野で、どのようなテーマのシンポジウムを希望されますか?
3	食品安全のリスク評価の具体例(できれば人の疫学データ)を専門家から紹介してもらおう。
6	市民が困っている、不安に思っている事象をいかに拾いあげて解決(不安解消)に至らせるか。
11	食品表示に求められるもの(アレルギー含む)
13	食品の表示のこれから、日本の表示と世界各国の表示制度
24	市民の「安全・安心」の理解力のレベル向上はどのようにすべきか(アプローチ) アレルギー

7	市民の食の安全・安心につながるリスコミのために、いま何が必要でしょうか?
2	わかり易い話ができる人の養成
3	食品表示のあり方と意味について、事業者・消費者から問題指摘
9	市民の感情を考慮しつつ、科学的根拠に基づく情報の提供
11	伝える情報の統一と伝わりやすい工夫
15	極端に言えば、ヤンキーも理解できる方法の研究
18	現実に合った説明の仕方、内容。聞きたい事と伝えたい/伝えている事にギャップがある。
21	しっかりしたリスクコミュニケーションの存在
22	市民の積極的参加
23	実践
24	対話、教育の機会(幼児、小学校から始めて自分の身を守る方法を教える) ディスカッションをどんどん設けていく。
25	「安全」が大切であることを学び理解していますが、「安心」という言葉を使いすぎている為に、安全であるはずのものが安心を得られず、「不安」という気持ちにさせているようです。